指宿の特色を生かした稼げる果樹産地の育成

成果の要約

１　マンゴー，カンキツの定期的な講習会，巡回指導，研修会等を通じて高品質な果実生産技術の支援に取り組んだ。
２　果実や新葉の日焼け防止対策を実証し夏秋期の高温対策に取り組んだ。
３　マンゴー及びカンキツを栽培している青年農業者に，関係機関と一体となって支援し技術力の向上に努めた。

１　対象

（１） いぶすき熱帯くだもの部会７戸
（２） いぶすき農協開聞果樹部会６戸)
（３）青年農業者４人

２　課題を取り上げた理由

（１）指宿地域では，かごしまブランドのマンゴーや施設不知火などのカンキツ類を中心に栽培されている。
（２）マンゴーでは，日焼け果や新梢の不充実による減収，天敵利用園でのチャノキイロアザミウマやカイガラムシ類による品質低下が課題となっている。
（３）施設不知火では，単収や果実品質の向上が課題となっており，高品質果実生産技術の確立が必要となっている。
（４）さらに，非農業系学校出身青年や新規栽培者の技術の習得を進める必要がある。

３　活動の内容及び成果

（１） マンゴー産地の育成
ア　講習会，巡回指導
毎月講習会（収穫期を除く）を開催し，安定生産や品質向上に向けた技術力の向上を支援した。（写真１）



写真１　マンゴー栽培講習会

イ　単収及び品質向上対策
チャノキイロアザミウマ及びコナカイガラムシ類対策として，新規登録農薬の効果を確認し，栽培暦に記載し普及を図った。（表１．２）

表１　チャノキイロアザミウマ対策新農薬効果

調査結果

薬剤名	反復	調査葉数	チャノキイロアザミウマ成・幼虫数(頭) 処理前	3日後	7日後
展示区					
ウララ50DF	Ⅰ	30	65	0	0
	Ⅱ	30	21	0	0
	Ⅲ	30	13	0	0
	合計	90	99	0	0
対照区	Ⅰ	30	58	4	1
ディアナWDG	Ⅱ	30	77	10	1
	Ⅲ	30	24	12	2
	合計	90	159	26	4

表２　コナカイガラムシ類対策新農薬効果

試験区	反復		生存虫数/3果実当/病 散布2日前 3/18	散布8日後 3/28	散布15日後 4/4	散布22日後 4/11	調査 4/4	4/11
試験区		幼虫	62	0	0	0	－	－
トランスフォームF	Ⅰ	成虫	2	7	0	0		
2000倍		計	64	7	0	0		
		幼虫	78	3	0	0	－	－
	Ⅱ	成虫	20	2	0	0		
		計	98	5	0	0		
		幼虫	150	4	1	0	－	－
	Ⅱ	成虫	2	15	1	0		
		計	152	19	2	0		
対照区		幼虫	114	5	1	1		
アプロードFL	Ⅰ	成虫	1	55	9	7		
1000倍		計	115	60	10	8		
コルト顆粒水和剤		幼虫	107	1	0	0	－	－
2000倍	Ⅱ	成虫	8	44	4	2		
		計	115	45	4	2		
		幼虫	210	9	0	11	－	－
	Ⅲ	成虫	5	79	13	7		
		計	215	88	13	18		

注）散布月日：2025年3月20日，処理量：500l/10a，処理方法：動噴散布

高温対策として果面温度及び照度を調査・検討し，遮光ネットを１か月早めて５月上旬に被覆したところ日焼け果の発生が殆どみられなかった。
さらに，新葉硬化前に遮光ネットを被

覆することで新葉の日焼けを防止できた。（写真２，３）



写真２　照度調査　写真３新葉の日焼け防止

ウ　管外研修

開発センター果樹・花き部への研修を実施し新技術の習得や現地の課題について検討し資質向上を図った。



写真４　開発センター視察研修

エ　青年農業者への支援

定期的な巡回指導を実施し，特に害虫防除の支援を実施した。（写真 5）



写真５　マンゴー青年農業者への支援

（２）カンキツ産地の育成

ア　講習会，巡回指導

毎月講習会を開催し，安定生産や品質向上に向けた技術力の向上を支援した。（写真 1）



写真６　カンキツ栽培講習会

イ　見本樹調査

各園地に見本樹を設置し定期的な肥大及び品質調査を実施し講習会等で指導した。



写真７　無加温不知火見本樹調

ウ　日焼け果対策支援

日焼け果対策を検討し，炭酸カルシウム剤散布よりテープ貼付による防止対策の有効性が実証され情報提供を行った。



写真８　日焼け果対策試験

４　今後の課題

（１）マンゴーの高品質果実の安定生産
（２）不知火の高品質果実生産
（３）高温対策の検討

５　担当した普及職員（〇はチーフ）

〇川畑